

【2022年度 学生交流委員会 事業報告】(案)

委員長校：神戸常盤大学

副委員長校：神戸親和女子大学

委員校：芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸市看護大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸常盤大学短期大学部、頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路大学、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学 計25校

＜目的＞

- 大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進に向けて、以下の取組課題について事業推進を行う。
- 取組課題③「大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進」
年間を通し各委員校からの提案を協議し、大小問わず、魅力的、そして学生が地元地域への理解を深め、魅力を感じることができるプログラムを予算範囲内で可能な限り実施し、学生交流を活性化させることを目的とする。

上記取組を推進する体制の構築並びに、必要なプロジェクト事業は本委員会にて実施する。

＜内容＞取組課題③に対する「個別取組」は、下記の通り。

1. テーマ型の学生交流プロジェクトの実施

他大学や地域・企業との連携・協働によるプログラムへの参加は、学生に大きな教育効果があるとの考えから、大学の枠を超えたテーマを設定した学生交流や活動を促進するプロジェクト全体を「WILL BE プロジェクト」の総称で位置付け、実施する（例：神戸青年会議所ほか、地元企業・団体等と連携した取組など）。
主体性をもって活動に取り組む学生を支援する仕組みをすることによって学生の成長の場とする。

2. 加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施

加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報では、様々なメディアでの告知やコンソHPへの記事掲載を計画・実施する。CMや掲載文を考えることで自主性や文章構成力を高めることを目的とする。地域で若者が活躍する姿を周知することにより、地域の活性化のための貢献活動に取り組む。併せてコンソの認知度を高める

また事業の実施体制として、ユニット制での実施を継続して実施する。上記2事業に基づく2ユニットのいずれにも全委員校が参加し、ユニットごとに企画立案から多くの加盟校が主体的に参画することにより、学生交流の実質化に繋げる。

＜期待される効果＞

他大学の学生との交流、社会人との交流等の場を提供することによる効果は以下の通り。

1. 学生が地域・企業との連携・協働を通じた社会貢献活動に、地元企業等と一緒に活動することで地元企業と地域の魅力を直に感じ、理解を深める効果が期待できる。

2. 参加した学生に様々な交流、広報活動を促すことにより、学生自らが他大学の学生と協働し、企画を実現することで主体性・実行力・発信力が向上する。また学生がメディア等を活用した周知に取り組むことで、自主性や文章構成力等を高めることを目的とする。併せてコンソの認知度を高める。
上記2つの取組により、コンソ加盟校の学生において本事業での経験が大学4年間の生活の充実に資する効果が期待できる。

課題③ 大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進		予算額
取組1	WILL BEプロジェクト 「テーマ型の学生交流プロジェクト」	1,100,000円
取組2	学生発信ブランディング 「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」	850,000円

【2022年度 学生交流委員会 事業報告(③取組1-1)】(案)

【③取組1】達成目標	各年参加者数50名以上
【③取組1】活動指標	参加加盟校数10校以上／年

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
達成目標 【③取組1-1】	参加学生数20名以上			
課題を解決する 取組概要 【③取組1-1】	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 ＜WILL BE プロジェクト＞①地元企業と連携した地域活動（連携先：神戸青年会議所）			
活動指標 【③取組1-1】	イベントへの企画段階から参加し、ブース出店等を1回以上			
内容 (結果)	◆神戸市、神戸青年会議所、企業、大学が連携し、兵庫・神戸のまちが持続性ある成長を可能にするため未来を担う人材＝大学生に兵庫・神戸の魅力を体感出来る機会を提供する。 ＜内容＞			
新しい試み等 (事業計画に記載)	2022年より中長期計画第Ⅱ期がスタート。全てが新しい取組(試み)となる。			
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	1,100,000	871,668	228,332	取組1-1、1-2、1-3 の合計
自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	3
	・今年度、新たな企画のため準備期間が短く、心配もあったが、多くの学生の参加があった。参加学生からは、「準備過程から当日まで、普段の大学生活では経験できない内容ばかりで勉強になった」「普段大学では一般の企業の方々と関わることがなく、大変貴重な経験」「企画やイベントは多くの方が支えあって成り立つことを実感した」などの感想があった。 ・地元企業との連携による本プロジェクトは、学生への刺激となり、所属大学の学内活動だけでは味わえない経験が、学生自身の成長に寄与したといえる。 目標、指標ともに達成しており、初めての試みとしては、満足できる成果となった。			

■自己評価基準
(対到達目標)

4:当初計画を上回って達成
3:当初計画を達成
2:当初計画をやや下回った
1:当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

4:本プログラムは継続すべき
3:本プログラムは継続しても良い
2:本プログラムの継続には改善が必要
1:本プログラムは中止すべき

理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)	地元企業との連携による本プロジェクトは、学生への刺激となり、所属大学の学内活動だけでは味わえない経験が、学生自身の成長に寄与していることがうかがえるので、今後も更なる活動に期待する。また、「地域子育て支援拠点」や「こどもの居場所」でのボランティア活動については、加盟校が運営する施設・人材を活用して、大学間で連携・協力できており、個人の学生ボランティアや地域活動へのニーズにも応える仕組みとして機能しており、加盟校全体で学生を育てることにもつながることから、今後も更なる活動に期待する。
------------------------------------	---

【2022年度 学生交流委員会 事業報告(③取組1-2)】(案)

【③取組1】達成目標	各年参加者数50名以上口
【③取組1】活動指標	参加加盟校数10校以上／年

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
達成目標 【③取組1-2】	参加学生数30名以上			
課題を解決する 取組概要 【③取組1-2】	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 ＜WILL BE プロジェクト＞②地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動			
活動指標 【③取組1-2】	参加団体5団体以上。個人参加15名以上。			
内容 (結果)	◆神戸市と大学が連携し、設置している市内の「地域子育て支援拠点」や「こどもの居場所」でのボランティア活動 ＜内容＞ 加盟校が連携して、コンソ加盟校の学生がボランティア活動や地域貢献活動に参加しやすい場、そして学習成果を発表出来る場を提供する。自学のプログラムやフィールドを加盟校の他大学の学生にも開放し、学生間の交流を促進した。 ・2022年度：神戸常盤大学が展開する神戸市内3拠点 【ときわんモトロク(中央区・元町六丁目商店街)、ときわんノエスタ・てらこやノエスタ(兵庫区・ノエビアスタジアム神戸)、ときわんクニヅカ・てらこや(長田区・アスタくにづか4番館)】を開放。 ＜開催時期＞2022年11月～2023年3月 ＜募集対象＞加盟校学生 ※団体・個人問わず ＜応募・参加状況＞4校8名の学生個人からの応募があり、4校7名の学生が活動に参加した。 (内訳)神戸学院大学(1)、神戸松蔭女子学院大学(1)、神戸女子大学(5)、神戸大学(1) 下半期からの新規事業として立ち上げたため、達成目標の参加学生数30名以上には至らなかったが、個人参加については活動指標15名以上の約半数・7名の参加があったことから、次年度、継続する場合は上半期から募集を開始して、周知・活動期間を十分にとることで目標を達成したい。			
新しい試み等 (事業計画に記載)	2022年より中長期計画第Ⅱ期がスタート。全てが新しい取組(試み)となる。			
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	1,100,000	871,668	228,332	取組1-1、1-2、1-3 の合計
自己評価	【対到達目標】	2	【対継続性】	3
	・2022年度下半期の新たな取り組みとして、10月から募集を開始したが、短期間で複数の学生が参加の意思を示し、実際の活動をスムーズに始めることができています。 ・また、地域活動を必修とする「履修科目」を有する加盟校に対しては、教育的な指導・サポートがある受入先としての役割も担うことができた。 ・加盟校が運営する施設・人材を活用して、大学間で連携・協力できている点、個人の学生ボランティアや地域活動へのニーズにも応える仕組みがあることは、加盟校全体で学生を育てることにもつながる。今後、各校で同様の取組が試行される可能性も含めて、継続可と判断すべきと考える。			
■自己評価基準 (対到達目標)		■自己評価基準 (対継続性)		
4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った		4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき		
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)	地元企業との連携による本プロジェクトは、学生への刺激となり、所属大学の学内活動だけでは味わえない経験が、学生自身の成長に寄与していることがうかがえるので、今後も更なる活動に期待する。また、「地域子育て支援拠点」や「こどもの居場所」でのボランティア活動については、加盟校が運営する施設・人材を活用して、大学間で連携・協力できしており、個人の学生ボランティアや地域活動へのニーズにも応える仕組みとして機能しており、加盟校全体で学生を育てることにもつながることから、今後も更なる活動に期待する。			

【2022年度 学生交流委員会 事業報告(③取組1-3)】(案)

【③取組1】達成目標	各年参加者数50名以上
【③取組1】活動指標	参加加盟校数10校以上／年

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
達成目標 【③取組1-3】	参加学生数10名以上			
課題を解決する 取組概要 【③取組1-3】	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 〈WILL BE プロジェクト〉③「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」			
活動指標 【③取組1-3】	参加学生のチーム活動／月1回以上(活動期間中)			
内容 (結果)	◆ナガセケムテックスプレゼンツ『ヴィクトリーナ姫路・大学コンソーシアムひょうご神戸 スポーツビジネスコンテスト』…地域の活性化に資する人材育成のためのプログラムとして地域スポーツ振興をテーマに、今年度初めて、スポーツビジネスコンテストを企画実施した。 ＜内容＞バレーボールVリーグに所属する「ヴィクトリーナ姫路」が抱える事業課題に対して、ゼミ単位もしくは大学の垣根を越えて構成した学生プロジェクトチームで、課題解決につながる企画を立案。さらに、ヴィクトリーナ姫路へのプレゼンテーションを経て、その企画を学生が主体となってホームゲームで実施し、その効果を検証した。学生は大学講義等で学んだことを実践する機会となり、深みのある学びを経験した。本事業を通じて、社会人として求められるスキルであるマーケティング思考やプロジェクトマネジメントを習得するきっかけにもなった。プロジェクト修了後、スポーツビジネスへの関心を高めた学生が、自主的に行動してインターンシップ生として受け入れていただくなど、一過性のイベント参加にとどまることなく、将来のキャリアを自ら考え、行動する学生も生まれた。 ＜活動期間＞2022年8月8日(月)～12月17日(土) ・8月8日(月):オリエンテーション(会場:兵庫国際交流会館) ・8月9日(月)～9月23日(金):企画実施準備(チームごとに活動) ・9月24日(土):企画プレゼン大会(会場:ヴィクトリーナウイング体育館) ・10月1日(土):学生チームの企画に対して実践に向けての課題提案(オンライン) ・10月～11月:企画実施準備(オンラインワークショップ計5回開催) ・11月12日(土):現地視察(会場:ヴィクトリーナウイング体育館) ・12月3日(土)・4日(日):企画実地(会場:ヴィクトリーナウイング体育館) ・12月17日(土):結果発表・表彰式 ＜募集対象・参加学生＞加盟校学生・10校70名 以下内訳(大学名・参加者数) 明石工業高等専門学校(1)、関西福祉大学(7)、関西学院大学(9)甲南大学(2) 神戸海星女子学院大学(2)、神戸学院大学(20)、神戸女子大学(6)、神戸親和女子大学(8)、兵庫県立大学(14)、流通科学大学(1)			
新しい試み等 (事業計画に記載)	2022年より中長期計画第Ⅱ期がスタート。全てが新しい取組(試み)となる。			
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	1,100,000	871,668	228,332	取組1-1、1-2、1-3 の合計
自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】	4
	・今年度初めての取組であったが、10大学から70名程の参加があった。5大学のゼミ参加に加え、個人応募の学生と運営スタッフチームは大学混合チームを編成、11チームに分かれて活動できた。 ・地元のプロスポーツチームが抱える課題を解決すべく、企画するだけでなく、実践とその成果が、評価対象となる本コンテストは、学生が社会人としての基礎力を身に付ける鍛錬の場にもなった。スポーツと地域振興の観点で、専門性の異なる学生間で切磋琢磨しながら、地域社会やビジネスの本質に触れることは、学生の成長を促す学び場としての可能性が高く、継続すべきと考える。 ・また、今年度新たに賛助会員企業に参画いただいたナガセケムテックス様には、協賛金として、100万円を賞金として拠出いただき、学生の学びを支援いただけた点も評価できると考える。			

■自己評価基準
(対到達目標)

4:当初計画を上回って達成
3:当初計画を達成
2:当初計画をやや下回った
1:当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

4:本プログラムは継続すべき
3:本プログラムは継続しても良い
2:本プログラムの継続には改善が必要
1:本プログラムは中止すべき

理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)	地元企業との連携による本プロジェクトは、学生への刺激となり、所属大学の学内活動だけでは味わえない経験が、学生自身の成長に寄与していることがうかがえるので、今後も更なる活動に期待する。また、「地域子育て支援拠点」や「こどもの居場所」でのボランティア活動については、加盟校が運営する施設・人材を活用して、大学間で連携・協力できており、個人の学生ボランティアや地域活動へのニーズにも応える仕組みとして機能しており、加盟校全体で学生を育てることにもつながることから、今後も更なる活動に期待する。
------------------------------------	---

【2022年度 学生交流委員会 事業報告(③取組2)】(案)

【③取組2】達成目標	情報公開数200取組以上
【③取組2】活動指標	各加盟校からの情報提供/年1回以上、情報公開数40取組以上／年

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
達成目標【③取組2】	情報公開数200取組以上			
課題を解決する取組概要【③取組2】	加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施			
活動指標【③取組2】	各加盟校からの情報提供／年1回以上、情報公開数40取組以上／年			
内容 (結果)	◆地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介 大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに、加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を公開。また必要に応じて、様々なメディア等への告知を検討・実施した。 <内容> 加盟校からの情報提供をもとに、地域で若者が活躍する姿を周知することにより、加盟校による地域の活性化のための貢献活動に取り組む。 <結果>活動指標「各加盟校からの情報提供／年1回以上、情報公開数40取組以上／年」に基づき、本委員会を中心とする各加盟校の教職員・学生の協力を得て、下記1～4の取組広報を40取組以上実施した。初年度の取組として、5か年達成目標「情報公開数200取組」に向けた仕組みづくりができた。 1、大学コンソーシアムひょうご神戸HP上の「NOTE」に、「地域で輝く学生」と題して、加盟校学生の地域活動の様子を11月～2023年3月末にかけて18校・28本掲載。 2、取組1-1と連動し、「KISSFM神戸」に2022/7/14、9/22、12/23、2023/1/26と計4回出演。「WILL BE プロジェクト」に参加した学生(関西学院大学・神戸海星女子大学・神戸女子大学・甲南大学・兵庫県立大学)が各回2名(計8名)出演し、コンソ自体の活動、そして学生交流委員会の活動のPRを行った。 3、取組1-1で、参加したイベント関連の広報をSNSを活用し、学生が自ら発信した。計25投稿。 4、「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」に関して、神戸新聞に取材記事が掲出された。(2022/9/27朝刊、2022/11/2夕刊、2023/1/9姫路版・計3回)			
新しい試み等 (事業計画に記載)				
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	850,000	650,157	199,843	
自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	3
	2022年上半期は、コロナがなかなか収束せず、加盟校の取組(イベント)自体に中止等があったせいか、加盟校から学生の地域活動に関する積極的な情報提供や発信に関して、難しい状況が見受けられた。しかし、下半期11月以降からは大学からの情報提供が増える傾向が出ており、可能な範囲で情報発信はできている。			
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)	■自己評価基準 (対到達目標) 4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った ■自己評価基準 (対継続性) 4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき			
	コンソHP上にて「地域で輝く学生」と題して活動の様子を掲載し、WILL BEプロジェクトの活動PRや広報をメディアやSNSを通じて発信しており、イベントと連携した活動周知が行われていることから、次年度も引き続き、本プログラムに取り組んでいただきたい。			

【2022年度 学生交流委員会 事業決算】(案)

(単位:円)

		予算	決算案	取組1			取組2			委員会 予算・決算案		
				WILL BEプロジェクト 「テーマ型の学生交流プロジェクト」			学生発信ブランディング 「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」					
				内訳	予算額	決算案	内訳	予算額	決算案	内訳	予算額	決算案
収入	会費収入	2,050,000	2,050,000		1,100,000	1,100,000		850,000	850,000		100,000	100,000
	助成事業収入	0	0									
	受託事業収入	0	0									
	プログラム収入	0	0									
	雑収入	0	0									
	戻入金	0	0									
	計	2,050,000	2,050,000	1,100,000		1,100,000	850,000		850,000	100,000		100,000
支出	会議費	150,000	9,816	交流会・反省会	100,000					会議費	50,000	9,816
	旅費交通費	200,000	516,830	交通費・昼食費	150,000	482,430	交通費	50,000	34,400			
	通信運搬費	830,000	451,055	送付費	30,000	8,375	ラジオパブコメ等	800,000	442,680			
	消耗品費	200,000	105,754	消耗品	200,000	105,754						
	新聞図書費	0	0									
	印刷製本費	200,000	5,960	募集・実績報告	200,000	5,960						
	光熱水料費	0	0									
	賃借料	20,000	62,040	会場費	0	62,040				会場代	20,000	0
	保険料	120,000	0	保険	120,000							
	謝金	0	224,466	謝金	0	54,084	謝金・原稿料	0	170,382			
	租税公課	0	0									
	支払手数料	0	5,720	振込手数料	0	3,025	振込手数料	0	2,695			
	諸会費	200,000	150,000	出店費	200,000	150,000						
	委託費	0	0									
	人件費	0	0									
	接待交際費	0	0									
	支払支援金	100,000	0	学生企画諸経費	100,000							
	雑費	30,000	0							雑費	30,000	0
	計	2,050,000	1,531,641	1,100,000		871,668	850,000		650,157	100,000		9,816

収入－支出	518,359
-------	---------